

令和6年度 地域教育文化学部 児童教育コース 総合問題

前期第1問

問1 2位

問2 3位

問3 立ち幅跳び

前期第2問

問1 a: 19.2

b: 33.9

問2

令和元年度は平成22年度より教員合計人数が約9000人減少した程度だが、40歳未満の比率が上昇し、40歳以上の比率が低下した。(57文字)

前期第3問

問1

木下さんは手術をして目が見えないから、つまづいたり転んだりしないよう教えたり助けたりするサポートをしなければいけないと思ってつきあうこと。(69字)

問2

筆者は「意味」ベースの関わりの重要性として、見えないからこそその意味を発見したり、差異を面白がったりする和気あいあいとした関係が生まれることをあげている。そしてそれによって、健常者が障害者に教え、助けなければならないという情報ベースの関わりがもつ緊張関係や固定された上下関係から抜け出して対等な関係を生み出せることを論じている。

私はこれまで障害者とのつきあい方については情報ベースの関わりしか意識してこなかった。この文章を通して木下さんの言葉と筆者の主張から、見える人の世界と見えない人の世界それぞれに面白さや発見があることを知ることができた。もちろん、健常者が障害者の事情を理解した上でサポートすることは大切だと考える。しかし、障害者を理解する際に、障害者は世界をどのように捉えて生活しているのか、生活の大変さばかりに目を向けるのではなく、楽しいことや新しい発見にも目を向けることを意識してみたい。

木下君の友達には、「木下君に目が見えなくなって困っていることを聞いてあげるだけでなく、目が見えなくてもできる遊びや楽しみ方を一緒に考えてみるといいよ」とアドバイスしたい。(484字)